

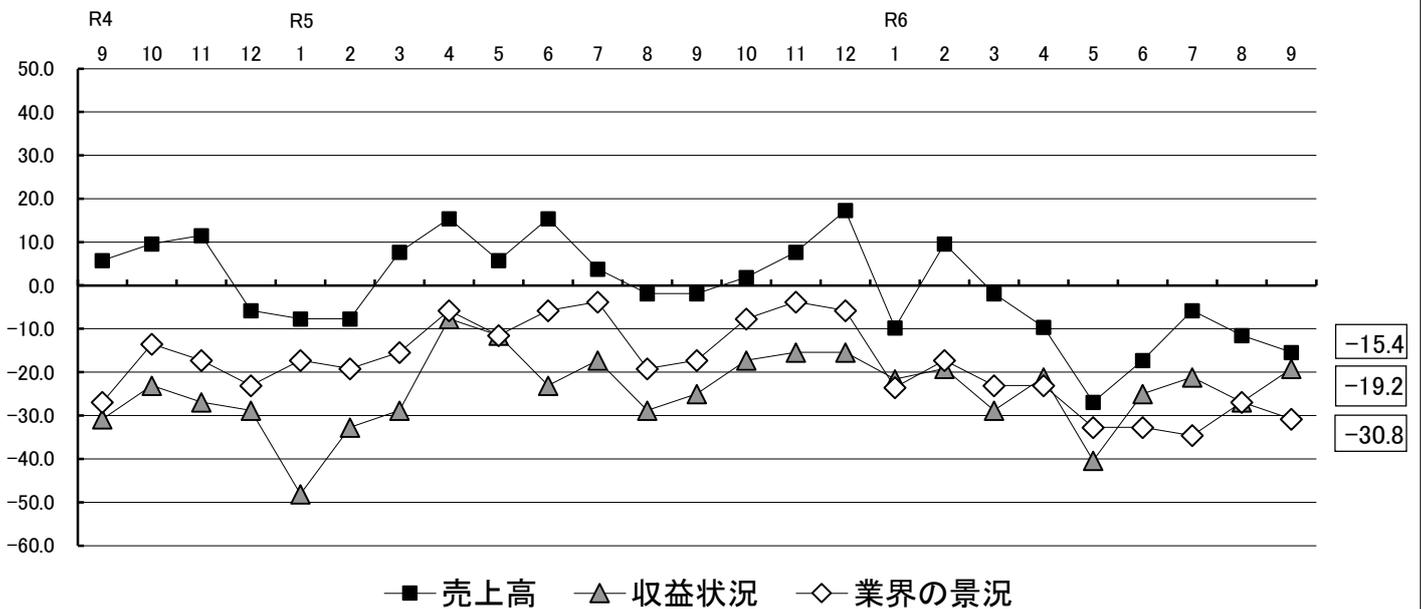
中小企業団体情報連絡員報告結果(令和6年9月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員5名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 9月の前年同月比DI値は、前月と比べて、主要3指標では「収益状況」で上昇がみられた。一方、「売上高」「業界の景況」は、低下となった。その他の指標では、「在庫数量」「販売価格」の2指標が上昇し、「取引条件」「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の4指標が低下した。
- 猛暑が続いた影響で、衣料関係では秋冬物の売上低下、食料品関連では作物の発育が悪く仕入れ値が高騰している。さらに、全業種において人材不足が課題となり収益力の大きな足かせとなっている。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-15.4	-3.8	-12.0	-0.3
収益状況	-19.2	7.7	-25.5	0.1
業界の景況	-30.8	-3.8	-27.4	-0.6

売上高

当月の県内売上高DI値は、前月より3.8ポイント低下し-15.4ポイントとなった。全国においては、前月より0.3ポイント低下し、-12.0ポイントとなった。

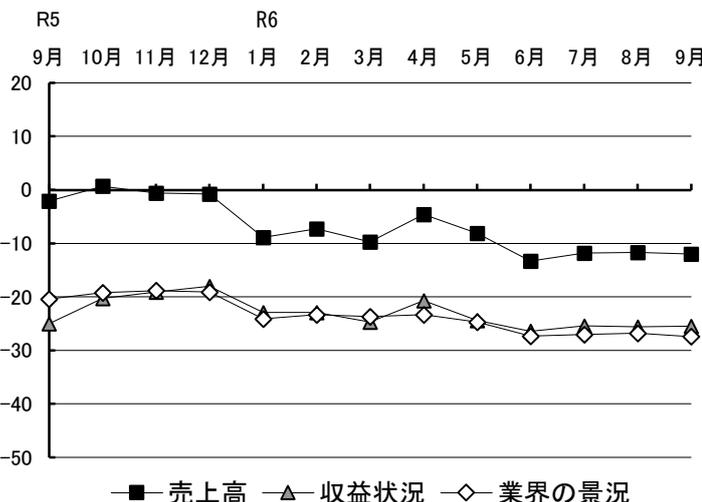
収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より7.7ポイント上昇し-19.2ポイントとなった。全国においては、前月より0.1ポイント上昇し、-25.5ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より3.8ポイント低下し-30.8ポイントであった。全国においては、前月より0.6ポイント低下し、-27.4ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概況-

9月の前年同月比DI値は、図表2のとおり前月と比べ3指標が上昇し、6指標が低下となった。主要3指標では「売上高」及び「業界の景況」は3.8ポイント低下、「収益状況」は7.7ポイント上昇となった。

製造業では、「繊維工業」で例年以上に残暑が続いた影響により秋冬物への関心が向かず、受注量が減少している。さらに、原材料及び賃金の上昇に伴い収益確保に苦戦している。「木材・木製品」では、住宅需要に活気が見られず住宅着工数の減少により受注は低迷している一方、非住宅の新規見積りが増えてきたものの、景況感の先行きは依然不透明なままである。

非製造業においては、「建設業」で受注状況は僅かに増加し収益を確保できたが、人手不足は深刻な状況にあり改善の見込みが立っていない。「小売業」では、原材料高と気象の影響により仕入価格が上昇しているが、十分な価格転嫁ができず収益が確保できない状況にある。業種によっては、仕入先や調達方法を見直す動きも出てきている。

多くの業種で、原材料・賃金・物価の上昇に伴い、商品・料金等の値上げを検討せざるを得ない状況が続いているが、値上げすることで消費離れが加速する懸念があり、その対応に苦慮する声が多く寄せられている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	0.0	0.0	25.0	-25.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
繊維・同製品	50.0	0.0	50.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0
木材・木製品	-25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	0.0	-100.0
窯業・土石	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0
鉄鋼・金属	-50.0	0.0	50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0
一般機器	-25.0	25.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0	0.0	-25.0
製造業	-12.0	8.0	36.0	-12.0	-24.0	-20.0	-16.0	0.0	-28.0
卸売業	-33.3	0.0	0.0	-33.3	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-28.6	-28.6	42.9	-28.6	-28.6	-42.9		14.3	-57.1
サービス業	0.0		16.7	-16.7	0.0	-16.7		-16.7	-33.3
建設業	20.0		20.0	0.0	0.0	0.0		-20.0	-20.0
運輸業	-50.0		0.0	0.0	-25.0	0.0		-25.0	-25.0
その他	-50.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-18.5	-20.0	18.5	-14.8	-14.8	-18.5		-11.1	-33.3
全体	-15.4	0.0	26.9	-13.5	-19.2	-19.2	-16.0	-5.8	-30.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	5年				6年				7年				前月比	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		9月
売上高	-1.9	1.9	7.7	17.3	-9.8	9.6	-1.9	-9.6	-26.9	-17.3	-5.8	-11.5	-15.4	-3.8
在庫数量	2.9	-17.1	-17.1	-14.3	-5.9	-8.6	-8.6	-14.3	-2.9	-2.9	-5.7	-2.9	0.0	2.9
販売価格	23.1	26.9	26.9	25.0	27.5	23.1	25.0	19.2	17.3	28.8	25.0	21.2	26.9	5.8
取引条件	-11.5	-3.8	-3.8	-1.9	-5.9	-7.7	-5.8	-7.7	-11.5	-15.4	-9.6	-5.8	-13.5	-7.7
収益状況	-25.0	-17.3	-15.4	-15.4	21.6	-19.2	-28.8	-21.2	-40.4	-25.0	-21.2	-26.9	-19.2	7.7
資金繰り	-11.5	-3.8	-1.9	-5.8	-7.8	-5.8	-7.7	-9.6	-15.4	-11.5	-11.5	-17.3	-19.2	-1.9
設備操業度	0.0	12.0	-16.0	-8.0	-12.0	-4.0	-16.0	4.0	-8.0	-12.0	-8.0	-4.0	-16.0	-12.0
雇用人員	-5.8	0.0	0.0	-3.8	-3.9	-5.8	-11.5	0.0	-5.8	-9.6	-5.8	-3.8	-5.8	-1.9
業界の景況	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	-23.5	-17.3	-23.1	-23.1	-32.7	-32.7	-34.6	-26.9	-30.8	-3.8

特記事項

情報連絡員報告（令和6年9月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	和洋菓子製造業	売上に関しては増加傾向であるが、人件費等のUPで収益は難しい。今後は、再度の価格の見直しが考えられる。
	めん類製造業	県内の人口減少の影響、少子高齢化、飲食店舗の後継者不在、もしくは、後継者がいても後継させないなど、得意先において、月に1軒位のペースで廃業が出ている。県内観光地では、7月及び8月と比べて9月は、観光客など入出の減少や厳しい残暑の影響があった。得意先の飲食店も人出不足で、パートさんも不在な状況。稀に、地方の有名店に限るが、創業者一族以外の方が経営を継続するケースがあった。後継者不在の飲食店では、前向きな投資をしない、市場の戻つぼみの傾向が続いているとのこと。9月に行われた全麺連の国産小麦の生中華麺品評会で、県内3社（石川製麺、麺ズファクトリー、大西製麺）が入賞との明るいニュースが入った。
	酒類製造業	原料米の高騰がこれからの酒造りの大きな障害となる。資材や燃料エネルギー等すべての価格が上昇する中、商品の値上げを検討せざるを得ない状況で、消費者のアルコール離れを誘発する危険があるため容易に値上げできないのが現状である。
繊維工業	縫製業	年間継続商品の受注が確立した為、売上と販売価格に関して上昇した。しかし、業界の状況はなかなか上向きになっていない。引き続き加工料UPの交渉と生産数量の確保が必要な状況。
	染色整理業	賃金UPによる対策・物価上昇による対策の厳しさ
	絹・レース・繊維粗製品製造業	物価高騰が続く中、米不足が話題となるなど不安定な世相を感じるが、衣料関係も秋物の出足はかなり悪い。気温の高止まりが続き、客も秋冬物への関心が向かないようで、レディースもメンズも活発な動きは見られない。
木材・木製品	一般製材業	住宅需要に活気が見られず、住宅用木材の荷動きが悪い状態である。この先の景況感が読めず、先行きが不透明である。
	家具・建具製造業	住宅着工数の減少により受注は低迷、材料価格の依然高止まり、金融機関の金利引き上げも開始されており、景況感は悪化している。
	木材・木製品製造業	住宅関連の景況感は良くない、木材価格は低調。非住宅の新規見積りが増えている印象。産業向け梱包材などは在庫一巡、発注量が増えてきている。
	木材・木製品製造業	販売量・仕入量については流通部門・製造部門とも増加の見通し。販売価格・仕入価格については流通部門・製造部門とも保ち合いの見通し。
印刷	印刷業	需要が薄い中、用紙・資材・人件費等、上昇分の価格転嫁に苦慮。今後、郵便料金値上げや新聞折り込チラシの引取り運賃加算などの影響が懸念される。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年に比べ減少した。建材関係及び肥料関係は、昨年に比べ増加した。全体では、昨年に比べ減少した。
	陶磁器・同関連製品製造業	秋になりお客様が多く来る様になった。組合員の窯元も11月の陶器市ための制作がピークになっている。在庫は物により値上が予想される物は増している。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	鋼材需要は全体に荷動きが乏しく低迷が続いている。10月からの金利上昇や電気料金の高騰で年末賞与の影響にもなりそうである。様々な団体において当月も脱退が止まらない。自動車関連は当月も受注減少。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人材不足、賃金の上昇。
一般機器	一般機械器具製造業	売上高、収益状況及び設備操業度は、各社ばらつきがあるが厳しい状況が続いている。人材の確保も厳しく、来春の新規高卒の人員確保は見込めていない。条件面で（休日日数が少ない）はじかれてしまっているようだ。
	一般機械器具製造業	全般的に不変とする組合員企業が多かった。売上高については不変とする組合員企業と減少とする組合員企業が同数であった。仕入れ資材についてはほとんどの組合員企業が上昇との報告があり、今後の動向が気になる。為替相場（円レート）は小康状態であり気になるところであるが、これらの変動が今後、仕入れ資材や諸経費等への影響が引き続き懸念されるところである。また人手不足との報告も出ている。引き続き賃金アップ等の対応など、今回も経営基盤の懸念ありとの報告がされている。あくまでも企業間格差がある。
卸売業	化粧品卸売業	今まで返品可能だったメーカーが返品不可になるなど、取引条件が若干厳しくなってきたような気がする。
	各種商品卸売業	すべての項目で不変とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ微増するも不変とする企業が多い。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。全体的に荷動きはあまり良くない。燃料価格は、高止まりが続いており、物価高騰と相まって、収益を圧迫している。輸入関連で円安の影響が大きく出ている、コストが増加している。従業員の人員確保が難しい。（募集をかけても集まりにくい。）賃金アップについても対応していく中で、原資の確保など課題も多い。

小売業	食肉小売業	世界各国の食肉の需要が高まり、為替との関係で輸入品の高値が続いている。又、異常気象による気温の上昇で食物の発育が悪く、国内の食肉価格が史上高値になっている。利益が出ない状況で、売上も前年同月より落ちている。
	その他の小売業	昨年同月との単純比較では、物価高による一部事業（保安調査）の料金一部改定により、減収は避けられたが、人員・設備操業度が低下している。そのため、一部価格改定がなければ減収・減益となっていた可能性がある。但、設備操業の為のコストが物価高の影響により、増収・減益というのが実情。また、業界全体の業況について、LP ガス販売は、今年の夏季は例年に比較し、猛暑であったことも影響しており、只でさえガス使用量の減少する時期ではあるが、昨年比でも全体的に使用量が減少している。そのため、減収減益となっている事業者が多いと推察している。栃木県では第四次LP補助金（とちLP割）が再び冬季に行われる可能性が高いため需要を喚起し、夏季のマイナス分を埋めることが肝要と考えられる。
	各種商品小売業	前月から概ね約5%~15%前後の減少。景気の回復は見られないままであった。季節の後ズレで夏の暑さが続き服飾小売りは三ヶ月ぶりに悪化し、また、台風の影響もあって飲食店関係は客足が鈍り低迷であった。一般小売り業も台風の影響で約5%~15%の減少、一段と厳しさを感ずる。
	各種商品小売業	8月の猛暑の流れで厳しい残暑が懸念されたが、9月は想定より気温も下がり、それに伴い秋冬物アパレルが比較的好調に推移した。10月以降の懸念点として、市内中心部の中橋架け替え工事により大規模な交通規制が長期にわたり実施されることで、市内の人流に多大な影響が及んでしまうことである。
	花・植木小売業	秋の彼岸 輪菊、スターチスなど例年この時期の主力花材の調達に苦労。出荷本数も例年より少なく、価格も割高。気象の影響もあり。予約対応、セリ前に殆どが販売され、セリ分はわずか。花材調達がセリ主体ではなく、事前調達主体に変化してきている。
サービス業	理容業	保健所や健康福祉センターの協力を得て、新規店舗開設の届を受けた際には、組合加入の推進をして頂いている。組合関係のパフレットを用意し、加入のメリット等をアピールし、加入促進を進めている。また、各支部において支部行事を行う際に、非組合員の方にも声をかけ、仲間意識をもち、いずれ組合加入を考えて頂ければと願っている。
	自動車整備業	売上高は増加したものの、費用の増加が大きく思ったような収益が望めない
	旅館・ホテル	宿泊は高稼働で推移したがコロナ前とは月ごとの傾向が違ってきているよう感じる。宴会は、新型コロナウイルス宿泊療養施設後の原状復帰作業中により90%ダウン。飲食店は、週末は戻ってきた感じがあるが、物価高による利用控えの影響が飲食店には出ているよう感じる。原材料の高騰も影響が大きい。
	ビルメンテナンス業	除草等のスポット業務の受注が増え、収益の増加につながっている。宅配関係の倉庫内作業の受注も増えている。
	給食センター	日本銀行の利上げに伴い、借入金の利率が上昇し返済がより負担に感じる。中小企業経営者としては、これ以上の利上げは控えてもらいたい。
建設業	職別工事業	工事受注状況においては前年同月に比してわずかながら増加傾向にあり、収益面においても同様に増加傾向にある。但し、相変わらず人出不足の状況は続いている。
運輸業	貨物自動車運送業	地域内の輸送量が減少傾向にあり、遠方への輸送ではコスト面を考えると収益減となっている。アルミコイルなど自動車関連では、認証問題の影響で品質確保を優先し生産を抑えていたが9月以降生産を増加するらしいのでコイル輸送が増加することを期待したい。反面、倉庫での保管量を抑え保管料を削減する傾向にある。燃料価格についても支援額が下がっており、原油価格が円高方面に進むと今後支援額が減ることで燃料代が増えてくることが考えられる。
	貨物軽自動車運送業	9月に関しては3連休が2回あり、連休前、連休後は依頼が後を絶たない日があったが、全体的に見れば例年より少し上向きくらいの感じであった。台風・豪雨被害関連の御依頼も定期的に続いている。
	一般乗用旅客自動車運送業	タクシーは天候にも影響される事も多く、夕方なら当然需要が高まる。反面、台風の前情報が最近では警戒を要するものが多かったためそのような時は街中も閑散としてタクシーの動きは当然悪い。今年のみならず毎年の経験から9月の売上の的には若干厳しい。協同組合と協会とで重複していた2台のコピー機を1台にしたり、電話機の契約など1本化したりしてスリム化に努めている。
その他の非製造業	大谷石採石業	大谷石の取引状況は昨年と変わらずなく、大規模な取引が少ない。観光客は、変わらず推移している。